

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171100308		
法人名	有限会社 アクティサービス		
事業所名	グループホーム 向陽台		
所在地	千歳市白樺2丁目1番1号 (電話) 0123-28-5888		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成20年12月29日

【情報提供票より】 (平成20年11月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年 11月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算11.2人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	4階建ての	3・4階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:25,000円 暖房費(11~3月):16,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

## (4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 80.6歳	最低	66歳	最高	96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団いずみ会 北星病院・佑愛歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム向陽台は、JR千歳駅から車で15分ほどの距離にあり、市営団地や中学校のある住宅街の一角に位置している。法人の代表者は、特別養護老人ホームの理事長を務めており、その経験をグループホームの運営に活かしている。また、法人で経営している訪問介護の事業を通して、認知症の人々が増えてきていることを実感し、グループホームの設立に至った。4階建ての寮を改装し、4階が「どんぐり」3階が「たけのこ」という名称の2つのユニットで構成されており、2階フロアは、多目的ホールと高齢者専用賃貸住宅のスペースとなっている。職員は、「人としての尊厳と尊重」という理念に基づき、利用者主体のケアを心がけている。
---

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画を作成し、項目ごとに達成期限を設けて課題への取り組みを行ってきた。家族への報告、同業者との交流は改善されており、他は継続中である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、グループホームにとっての「教科書」として位置づけ、1年間の業務を見直す契機として捉えている。全職員に評価表を配布し、各職員が全ての項目を検討、職員会議で取り組んでいきたい内容を集約している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族の代表、民生委員、地域包括支援センターの介護支援専門員、及び管理者、計画作成担当者が参加し2ヶ月ごとに開催している。利用者の状況や事故、苦情の内容、職員体制、行事などについて報告し意見交換を行っている。地域の情報を収集し、夏祭りに参加したり、グループホーム主催の行事に地域の人々が参加するなど、運営推進会議を活かした取り組みが行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に全体の様子を報告する広報誌「しらかば」と個別の便りを送付している。個別の便りは、本人の顔写真を掲載し担当職員が手書きで日常生活の様子を知らせている。運営推進会議や家族会議、行事などの場を活用して、家族の意見を取り込むよう努めている。来訪時には、介護計画を説明したり、記録などを見てもらうことで家族との関係づくりを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、職員が町内会の一員として草取りに参加している。近隣の広場で行われた夏祭りには、利用者も参加し「地域、自然との共生」という理念を具現化している。また、町内会福祉部主催で2ヶ月に1回開催される乳幼児と高齢者の交流の場である「ハッピーひろば」に参加している。8月には、向陽台中学の体験学習で4名の生徒を受け入れ、その後も交流が続いている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年開設時に人生の先輩である高齢者の尊厳を護るため「人としての尊厳と尊重・個々人の心を見るケア・自然、地域との共生」という事業所としての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各ユニットの入り口とリビング、職員の休憩室に掲示している。また、毎月発行の広報誌「しらかば」に運営理念を掲載している。理念の意味を具体的な言葉に置き換えて考え、介護計画の作成や日々のケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員が町内会の一員として草取りに参加している。近隣の広場で行われた夏祭りには、利用者も参加し盆踊りや屋台を楽しんだ。また、町内会福祉部主催で2ヶ月に1回開催される乳幼児と高齢者の交流の場である「ハッピーひろば」に参加している。向陽台中学の体験学習では4名の生徒を受け入れ、その後も中学生が手作りのカレンダーを届けるなどの交流が続いている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、グループホームにとっての「教科書」とであると位置づけ、1年間の業務を見直す契機として捉えている。全職員に評価表を配布し、各職員が全ての項目を検討した後、職員会議で内容を集約して、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族の代表、民生委員、地域包括支援センター職員及び管理者、計画作成担当者が参加し2ヶ月ごとに開催している。利用者の状況や事故、行事などについて報告し意見交換を行っている。地域情報の収集やグループホーム主催の焼肉パーティーや敬老会に地域の人々が参加するなど、運営推進会議を活かした取り組みが行われている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の「千歳学出前講座」を利用し、2ユニット合同で「手打ち蕎麦」の行事を行った。市の担当者からは、国の動向や他の事業所で発生した事故の説明を受けるなど、サービスの質の向上に向けて市との協働関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、広報誌「しらかば」と個別の便りを送付している。個別の便りは、本人の顔写真を掲載し、担当職員が手書きで日常生活の様子を知らせており、また、お小遣い帳の写しを同封している。受診後は電話連絡をし、健康状態を伝えている。離職は、来訪時や便りに掲載するなどの方法で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会議、行事などの場を活用して、家族の意見を取り込むよう努めている。来訪時には、介護計画を説明したり、記録などを見もらうことで家族との関係づくりを行っている。苦情解決の体制は、重要事項説明書にて図を用いて分かり易く説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は、各ユニットの職員を固定し、異動は行っていない。各々の職員が一人で悩み事を抱えないよう職員間のコミュニケーションを大切にしている。離職がある場合は、利用者に職員の交代を説明し、新入職員との関係づくりに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新年度に研修内容と派遣する職員について暫定計画を作成している。勤務扱いで認知症介護実践研修や高齢者虐待防止などについての研修に参加させており、職員の育成に努めている。年2回の内部研修では、アンケートで学びたい内容を把握し、担当職員を決めレジュメを作成して取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千歳市主催で年2回実施している地域ケア会議の研修に参加し、市内10箇所の同業者との交流を行っている。12月には、地域包括支援センターの呼びかけで、市内のグループホームの初めての交流会が実施され管理者、計画作成担当者、職員が参加した。次回は口腔ケアについて学ぶ予定である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談が入った場合は、事前に病院や自宅を訪問し、面談を通して本人や家族の思いや希望を聴き、グループホームでできることなどを説明している。見学の際には、一緒にお茶の時間を設けるなど工夫をしている。入居後は、新しい環境に馴染むことができるよう家族の協力を仰いでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、南瓜や芋の団子の作り方やお手玉遊びなどを教えてもらうことで、利用者がどのような時代を生きてきたのかを学んでいる。夜勤では、利用者から「早く寝なさい」などの労わりの言葉を掛けられることもあり、喜怒哀楽の感情を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話の中に、本人の思いや意向が表現されている場合もあるので、本人が発したそのままの言葉を個人台帳に記録している。また、行事の時には普段とは違う表情がみられるので見逃さないようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族および本人の情報・要望、担当職員の観察、医師の診断・意見に基づいて、担当職員が作成した原案をもとに、職員全員で検討し、計画作成担当者が中心になって介護計画を作成する。これを家族に確認し、本人にも説明した上で実行計画としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにケアカンファレンスに基づいて介護計画の見直しを行っている。見直し以前でも、介護認定更新時、入院や生活機能の変化があった時は再度アセスメントして見直しを行う。入居後、帰宅願望がなくなったときなども見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物のスペースに余裕があるため、これを有効活用して、利用者のレクリエーションに活用したり、家族や地域住民が参加する行事に場所を提供し、交流に役立てている。受診や個人の希望に応じた送迎サービスも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は協力病院に限らず、家族および本人の希望に沿って決定し、受診支援している。協力病院以外を受診するときも、家族の事情によっては送迎し、医師との情報交換を行い、家族が連れてゆく場合でも電話、手紙などで医師に状況を説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえ、今後のホームでの生活維持の可否を、家族・病院・ホームの3者間で共通理解を得るよう、話し合っている。	○	重度化や終末期のあり方については、話し合いのみに止まらず、できること、できないこと、具体的な対応策などを文書にして確認を交わすことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りやカンファレンスなど、個人情報を含む業務上の会話は利用者に聞こえないように配慮し、トイレ誘導などの声かけには周りの耳目に気をつけている。個人情報の記録は他人の眼に触れないよう、気を配り、鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事、入浴、買い物など、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿えるよう努力している。職員の行動パターンに余裕を持たせることによって、よりいっそう希望に沿った支援ができるよう、改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、日常会話の中で利用者の希望を聞きながら、季節の食材なども取り入れて職員が立てている。各人の能力に合わせて下ごしらえ、調理、盛り付け、後片付けなどを一緒に行い、職員も一緒に食卓に付いて会話しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を問わず毎日午後が入浴時間となっており、希望に応じて入浴してもらっている。入浴を拒否する利用者もいるが、最低週に2回は入れるよう、誘導している。入浴前には体温、血圧などの測定を行い、身体に負担のないよう、気を配っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人の得意なことや出来ることを見つけ、日常活動の中に取り入れ、喜びや達成感を感じてもらっている。生け花、暖簾づくり、掃除、プランターの植物の手入れ、ごみ捨てなどの役割や楽しみを分かち合っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れた日にはホーム周辺のバルコニーや駐車場に出て歩いたり、椅子・テーブルでくつろいだりして外気浴を楽しんでいる。週に1回程度は少し離れた公園に散歩に出たり買い物に出かけたりしている。	○	少し離れたところへの散歩の機会を週に数回くらいまで増やすことを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は利用者が開け閉めできる。玄関は外から入る側のみの施錠で、中からは自由に出入れる。不意の外出には見守りで対処しており、出るにはエレベーターに乗らねばならず、その時に出る音声で察知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、春と秋の防火月間にあわせて、消防署の協力を得て、通報、連絡、避難、初期消火、救援などの訓練を行っている。利用者も参加し、夜間想定も一度実施した。運営推進会議で地域への協力依頼も行っているところである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事量および水分摂取量を記録し、不足した場合は声をかけて促したり、ゼリーなどで補給し、水分は食事の他に1日1000ミリリットル以上を確保している。栄養バランスは、系列施設の管理栄養士が毎月チェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は清潔で明るく、ゆったりしたスペースが確保されている。別フロアに広い多目的のホールがあり、イベントや映画、カラオケなどが楽しめる。リビングには大きなカレンダーやひめくり、時計、季節を感じさせる装飾などが施され、時期や時間の感覚を刺激する配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室南向きで広く明るい居室である。タンス、ソファ、仏壇、テレビ、装飾物などが豊富に持ち込まれ、心地よい居住空間を作っている。掃除は利用者と職員が共同で行い、整理整頓がよく行き届いている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。